

平成25年度県立大学地域貢献研究の研究成果について（中間報告）

研究テーマ	福井県における医薬分業によるかかりつけ薬局機能の定着性の背景に関する研究 －GIS分析による解析と薬剤師の認識調査－
研究期間	平成 25～ 26年度
主たる研究者	看護福祉学部・看護学科 教授・大川洋子
<p>○研究目的</p> <p>超高齢化が進む福井県の医薬分業率は、約3割と全国で最も低い。医薬分業は患者に安心・安全に薬を提供するという目的のもと、かかりつけ薬局機能が十分に発揮されることが望ましい。特に、高齢者は複数科受診者が多く「かかりつけ薬局機能」による患者に処方された薬剤の一元的な把握に対する期待は大きい。その一方で、医薬分業は患者の利便性や医療費の患者負担増などの問題点が指摘されている。そこで、本研究は福井県のかかりつけ薬局機能が定着しにくい背景について、保険調剤薬局の立地状況や人口動態統計を検討し、あわせて中心的役割を担う薬剤師の認識調査により明らかにすることを目的とする。</p> <p>○研究成果</p> <p>1. 研究打ち合せ会議</p> <p>研究内容について検討した会議はすでに3回実施し、4回目は3月23日に開催予定である。各会議の概要は、以下の通りである。</p> <p>第1回（平成25年6月17日）県立大学に於いて（大川・加藤・平井・森脇） 薬局偏在状況の解析と薬剤師への質問紙調査について</p> <p>第2回（平成25年7月12日）やなぎや薬局に於いて（大川・加藤・平井） 薬剤師会副会長（小嶋洋一氏）と調査方法について具体的検討</p> <p>第3回（平成26年2月23日）東京に於いて 保険調剤薬局の地理的偏在状況の分析結果の検討（大川・森脇）</p> <p>第4回平成26年3月23日予定）県立大学に於いて（大川・加藤・平井・森脇） 中間報告と平成26年度研究計画の具体的検討</p> <p>2. 保険調剤薬局の偏在状況分析</p> <p>人口動態統計、保健統計等の既存資料により、保険調剤薬局（以下、薬局）の偏在状況を地理的に検討している。今年度は、人口当たりの医療機関（病院・診療所）と薬局数、患者数推計当たりの薬局数等を解析した。今後、どのようなデータを組み合わせる分析することが可能かなどについて検討を進めていく。なお、地理的分析（GIS）ソフトは、信頼性の高いEsriJAPANを使用した。</p> <p>3. 薬剤師を対象とした質問紙調査</p> <p>福井県薬剤師会への調査依頼、および調査票の発送作業を終えた。発送対象者数および発送先は表1のとおりである。</p>	

表1 対象者数および発送先

	個人薬局等 (非保険調剤 薬局等)	行政・研究 所・企業等	病 院 薬剤部門	保険調剤 薬局	計
対象者数 (人)	52	47	168	448	715
発送先 (箇所)	52	47	71	238	408

発送手順は①～⑥に示した。

①調査協力依頼 (9月)

福井県薬剤師会会長あてに依頼文書を送り、調査協力の承諾を得た。

②調査票作成 (10～11月)

調査内容は研究者4人と薬剤師(薬剤師会副会長)で検討を重ね、調査票を作成した。

③研究倫理審査 (11～12月)

福井県立大学人権擁護等倫理審査委員会の審査を受け、承認を得た。(承認番号 2013038号)

④調査票および発送・返信用封筒の印刷依頼 (2月)

調査票(4ページ)と質問紙依頼書、発送・返信用封筒の印刷を業者に依頼した。

⑤発送準備作業

薬剤師会会員名簿の開示について薬剤師会会長・副会長をはじめとする役員の承諾を得たうえで名簿を取得した。また、近畿厚生局福井支部による全医療機関一覧表と照合し、保険調剤薬局の管理者と病院薬剤部門への発送先一覧を作成するなどの発送準備作業を行なった。

なお、病院・診療所等の薬剤師の一部は薬剤師会会員であるが、非会員の病院の薬剤師に対する調査は、薬剤管理者と1名の薬剤師スタッフに調査協力を依頼した。また、診療所(19床未満)は薬剤師が不在の可能性もあり、発送の無駄を考慮し、20床以上のベッド数をもつ病院薬剤部門宛に発送した。

⑥発送作業完了と回収完了の予定

調査票の提出〆切は3月末とした。発送は2月27日に完了した。調査票回収の完了は期日までの返送遅延を考慮し、併せて対象者への返送確認作業を行なうため、4月末日を予定している。なお、返信用封筒は「料金受取人払い」手続き(福井南郵便局)をとったため、回収された部数の料金払いになる。

以上

※ホームページ掲載用として使用するため、A4 2枚程度で簡潔にまとめてください。
参考資料(図、写真等)があれば添付してください。